



○：超長期住宅先導的モデル事業の第1回公募の応募件数は603件で、このうち採択されたのはわずかに40件と、狭き門になった。部門別では戸建て新築の応募が多く、その他の部門の応募は少ない結果に終わっている。

○：モデル事業の新築分野の提案では、求められる基本性能が明示され

ており、そこにプラスアルファの形で先導的提案が求められていたが、採択から漏れた多くの提案は、定められた基本性能を大きく超えるような先導性が見受けられなかったのではないか。

○：センチリーハウジングシステムなどの流れの中で、住宅の長寿命化のための技術やシステムが横並び状態になりつつあり、その中でハード部分だけで先導性を示すことは難しい。

## 基本性能を超える提案を



北工房社長  
栃木 渡氏

○：今後モデル事業には、住宅の初期性能だけでなく、100年、200年単位で時間の流れを踏まえた、ソフトとハードを融合した提案、中古住宅流通市場の変革を促すような提案、コミュニケーションの形成などにまで踏み込んだ街づくりに関する提案、賃貸住宅や改修技術に関する提案、居住者の住まいに対する愛着を高めるような提案、住宅産業界のビジネスモデル自体を変え得る提案を期待したい。

(11月20日、住宅生産団体連合会・住宅の長寿命化講習会)